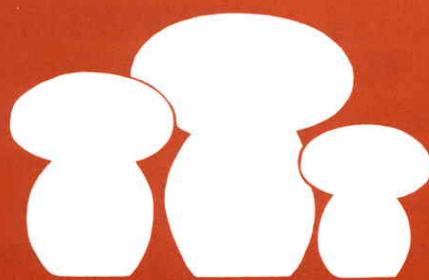


東北大学附属図書館報



木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしばうこ）—

目

○工学分館長に就任して	1
○『ビブリオグラフィア・ミッショナリア』と ウルバニアーナ大学図書館	3
○利用者アンケート結果について	7
○平成13年度参考図書購入報告	16
○平成13年度特別図書購入報告	17

次

○第33回国立大学図書館東北地区協議会総会	18
○会議	18
○商議会商議員名簿	19
○人事異動	20
○お知らせ	21
○編集後記	22

工学分館長に就任して

工学分館長 奥 脇 昭 嗣



最近、宮崎先生の後任として工学分館長となつたが、この2ヶ月ほどの雑感を述べさせていただくこととした。

独立法人化への対応：内外の社会・経済の変化はめまぐるしく、個人的にも大学の組織の変化には目が回る。学科の改組、大学院重点化、環境科学研究科、21世紀COE、云々。いま、工学分館に関わってみると、図書館の動きもめまぐるしい。これは、本学の独立法人化への対応で、各部局で進行しているものの一つに過ぎないが、中期目標

- 計画について以下のような多くの項目の検討が関係者の間で急ピッチで進められている。
 - A. 基本機能：開館時間の延長等サービス向上、分館機能のサービス重点化等々
 - B. 学習図書館機能（教育支援）：シラバスとの連携、学生1人当たり年1冊以上基本図書を購入等
 - C. 研究図書館機能（研究活動支援）：共用性の高い学術情報（学術雑誌、コレクション図書）を一元的に整備等
 - D. 学外図書館や関連機関との連携：他大学図書館および国立情報学研究所等と連携し、国際的・国内的な図書館間総合協力（ILL）の推進等

E. 社会貢献（生涯学習支援等）

F. 人材の確保と養成

G. 収益事業の推進

この変革の中で、同時に事務組織のあり方も検討されている。この激しい動きが附属図書館の機能強化・発展に繋がることを念じてやまない。

科学技術情報入手：無機化学とくれば先ず GMELIN、速報性からは C A と首っ引きという時代には、図書館は絶対的な存在であった。最近は化学情報検索に SciFinder が普及し、広く、深くまた高速で情報検索できるようになった。背に腹は代えられず全学の化学系研究室は、専門雑誌のようにその時間枠（1 アカウント）を購入している。その費用は受益者負担である。高価なため現状では十分な時間枠が確保できない。研究大学のインフラとしては不可欠であるため、何らかの緊急対策が求められている。これは化学分野に限られたことではないように思われる。

図書館と自然環境：もう 2 回も青葉山から川内本館に行く機会があった。現在、薬理系キャンパスからの山道は川内キャンパスと青葉山を結ぶ快適な通学路になっている。工学系キャンパスからは川内の大教センターへ下る道がある

が、天気が良くて歩いて行きたいというほど魅力がない。法文系キャンパスが充実してきたこの頃、工学部キャンパスとを繋ぐ山道があつたらいいと思う。いまの道を途中から分岐させれば、季節毎に姿を変える雑木林の中を歩けるいい道になりそうである。多くの人が身の周りで環境との共生を実感できる。移転後のキャンパスへも通じる道になるのではないだろうか。もちろん、市民も三太郎の小径から公園化したキャンパスの散策を楽しめる。

また、各図書館の周りの環境を活用するのもこれからであろう。青葉山では建物が次々にできてその度に林や木が減っていく。分館の屋上にビオトープを作って、ベンチやテーブルをおき、目の前に広がる樺並木の緑で疲れをいやしたり、読書をする空間を考えてもいい時代である。

忙しいけれども行って見たくなるような工学分館を一つの目標として、多くの先生方、運営委員と職員とが連携しつつ、本学の目的である社会貢献を果たすことができるよう微力ながらお役に立てるよう努力したいとおもいますので、関係の皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願い申しあげます。

(おくわき・あきつぐ)

『ビブリオグラフィア・ミッショナリア』とウルバニア大学図書館

大学院国際文化研究科 教授 山 下 博 司

『ビブリオグラフィア・ミッショナリア』の内容

昨年度、大学院国際文化研究科の特別図書として申請した『ビブリオグラフィア・ミッショナリア (Bibliographia Missionaria^{*1})』が採択され、1935年刊の第1号から2001年に刊行された最新号(第65号)までが附属図書館本館(2号館)に配架された。この機会に、出版物と、その刊行母体である教皇庁立ウルバニア大学 (Pontificia Università Urbaniana) および附属図書館についてご紹介したい。

この刊行物は、キリスト教関係の書誌学的な情報を盛る一種の書誌年鑑である。当該分野における出版本や数千にもわたる雑誌を丹念に調べ上げ、最新の学問的成果を振り分け、書誌学的情報(タイトル、掲載誌、発行日、該当ページ、重要な著作については目次なども)とともに紹介するもので、毎年1巻にまとめ、ウルバニア大学出版局から刊行されている。この分野で最も充実した内容の書誌年鑑として評価が高い。

内容について簡単に紹介しよう。たとえば最新号の場合、全部で27の項目に分かれ、それぞれ該当する研究成果の書誌的な情報が収載されている。27項目のうち、主だったところを見ると、神学、布教史、宣教学、教会法など従来からのオーソドックスな分野に加え、対象地域ごとの研究成果も掲載されていることに気づく。地域を列挙すれば、ヨーロッパ、中近東、南アジア、インドシナ、中国、日本、朝鮮、インドネシア・フィリピン、アフリカ、ラテン・アメリカ、アメリカ・カナダ、オーストラリア・オセアニアの順に世界全体をカバーしていることがわかる。論文や著述のタイトルを見ただけ

で、世界のキリスト教研究の動向だけでなく、現代におけるキリスト教そのもののあり方・趨勢が手に取るようにわかるし、ヨーロッパ世界以外でキリスト教研究がいかに盛んであるかも如実に知らしめてくれる。さらに興味深いことは、第2ヴァティカン公会議以降の趨勢を反映してか、宗教間対話 (interreligious dialogues) に関する項目が際立っていることである。こうした傾向は、近年の号にとりわけ著しい。対話の対象としている宗教としては、ユダヤ教、イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、中国の諸宗教、アフリカ土着の諸宗教が掲げられている。現代世界が抱える宗教多元的な状況を髣髴させる諸項目である。全27項目にわたるビブリオグラフィーのあと、さらに40ページ以上を費やし、66の新刊書についての書評が掲載され、著者名・人物名索引と事項索引が付されて巻が結ばれている。

本書は、筆者の知るところ、日本の大学では上智大学、明治学院大学、同志社大学などが部分的に収蔵するにとどまり、我が国で所有している図書館・研究所はきわめて限られている。カトリックにとどまらず、全世界に展開するキリスト教研究の最新の論攷についての情報が収録され、宗教学・宗教史、神学、キリスト教学・キリスト教史、比較宗教学、宗教社会学、宗教人類学、宣教学などを修める学徒にとって必見・必携の文献である。日本におけるキリスト教研究の層の薄さもあってか、これまで日本の学界で十分に認知をうけてこなかった傾きがあるが、本学の収蔵を機に有効に活用していただきたいものである。

*1 以前は *Bibliografia Missionaria* とイタリア風に綴っていたが、1971年刊行分以降は、*Bibliographia Missionaria* と、書名にわずかな改変が施され、現在に至っている。

『ビブリオグラフィア・ミッショナリア』の来歴

『ビブリオグラフィア・ミッショナリア』は、ヨハネス・ロンマースキルヒェン神父 (P. Johannes Rommerskirchen, O.M.I.) によって1935年に発刊された。その後、昨年までウルバニアーナ大学図書館の館長 (Chief Executive of the Library) の任にあったヴィリー・ヘンケル神父 (P. Willi Henkel, O.M.I.) が精力的に書誌情報を収集して内容の充実・増強をはかり、ウルバニアーナ大学の代表的出版物に育て上げた。昨年ミュンヒエンに赴任したヘンケル神父のあと館長職を引き継いだマレク・ロストコウスキ神父 (P. Marek A. Rostkowski, O.M.I.) によって、編集作業が分担され、刊行が発展的に維持・継続されている。

このように、この定期刊行物の充実には、1966年（第30号）以降、現在に至るまで、編集の実質的な責任を担ってきたヘンケル神父の功績によるところが大きい。ヘンケル神父が企画に携わりはじめた頃の巻にくらべ、最近の巻は、項目数やページ数においてほぼ二倍にも膨れ上がっている。これは、キリスト教研究自体の発展の跡を示すと同時に、何よりもヘンケル神父の熱意とたゆまぬ努力のあらわれであろう。筆者は、2000年の大聖年にローマ・ヴァティカンを訪れた折、ヘンケル神父のご温顔に親しく接することができたが、高齢であられるにもかかわらず、ほとんど毎日のようにパソコン端末の前に陣取り、検索システムの点検や書誌情報の確認に意を注いでいるお姿には、深い感銘を覚えたものである。研究上の照会にも懇切丁寧に応じていただき、感謝している。

アメリカ合衆国・ワシントンD.C.にあるジョージタウン大学や、同カリフォルニア州のサンフランシスコ大学など、外国のカトリック系大学の文書館・研究所を訪れる時しばしば感じ入ることだが、図書の仕事一筋の老いた聖職者

が、プロフェッショナルに徹して黙々と職務を遂行し、また進んで学生や研究者の便宜をはかり、相談や照会にも快く応じている姿はまさに印象的である。彼らの背は、何十年にもわたるカード検索やタイピング作業で、心もち前屈みに湾曲し、彼らの勤め励んできた幾星霜を、如実に且つ無言のうちに物語っている。そもそも、修道士たちのなかから、有能でその道に適性をもつ者が選ばれて任にあたるわけではあるが、それにしても、彼らの持続力と忍耐力には驚嘆の念すら禁じ得ない。こうして精勤する司祭たちのなかには、書誌学、古文書学、図書館学の専門家としての研鑽を積み、学者として名を為す者も少なくない。ヘンケル神父も、そうした一人であり、アジアのキリスト教史とそれに関わる書誌学的问题にとりわけ造詣が深い^{*1}。神父からは、書物の有無や所在だけでなく、当該分野の研究動向をも含む、諸文献についての該博な知識を背景にした的確かつ適切な回答・助言を期待できるのである。

こうしたスペシャリストになるためには、例外なく、長年にわたる研修や訓練、および古典語から現代語にわたる複数の言語の習得が必須とされ、一朝一夕に成るものではない。イエズス会本部・古文書館のトマス・レッディ神父や、彼の師で南インド・タミルナードゥ州にあるイエズス会マドゥライ・ミッションの古文書館を一人任せているG・アッシャンボー神父（フランス人）が口をそろえて言うところによれば、最近では、司祭自体の不足に加え、ラテン語など古典語離れの傾向も手伝って、職人肌の司書が次第に少くなり、しかも全体に高齢化が進んでいるという。淋しいかぎりである。これは世界的に言えることで、たとえば当のアッシャンボー神父にしても、劣悪な環境のなか、70代半ばの老体に鞭打ちながら、実に半世紀ものあいだ毎日タイプライターに向かっている。

*1 たとえば、前述の『ビブリオグラフィア・ミッショナリア』最新号に掲載された66の書評のうち、アジア・オセアニアのキリスト教に関わる6冊につき、ヘンケル神父自らが筆を執っている。6冊の内訳を示せば、ドイツ語による書物が4冊、フランス語が1冊、英語が1冊であるが、書評もそれぞれに対応する言語で著されている。

整理が待たれるキリスト教関係の古文献や歴史資料が山積しているが、彼のあとを引き継ぐ者は事実上見あたらないのが現状である。

ウルバニアーナ大学と附属図書館の概容

『ビブリオグラフィア・ミッショナリア』を刊行しているウルバニアーナ大学は、ヴァティカンおよびローマ市内に点在する6つの教皇庁立の大学の一つである。キャンパスはヴァティカン市国の領域内にあり、サンピエトロ・ヴァシリカのクーポラに登れば、南側、目と鼻の先に構内を一望することができる。サンピエトロ広場から、東のテヴェレ河に架かるエマヌエレ2世橋に通じる路地ボルゴ・サントスピリトに入り、イエズス会本部をぐるっと右に回って、裏手のジャニコロの丘に登ると、背の高い松の樹木に囲まれて建つ比較的小規模な大学にいたる。それがウルバニアーナ大学である。

この大学の沿革は、教皇ウルバヌス8世によるコレジオ・ウルバーノの設立（1627年）にさかのぼり、本来ヴァティカンの布教聖省（コングレガツィオーネ・プロパガンダ・フィーデ）による宣教活動に關係して設置された機関であった。当時は、布教聖省と同じくローマ市内のスペイン広場近くにあったが、1926年の聖年の折にキャンパスが現在地に移転し、1962年には正式に「大学」に昇格して教皇庁立ウルバニアーナ大学となり、いまに至っている。現在、キリスト教、中国研究、宣教などに關係する複数の附置研究所を有し、神学やキリスト教学・キリスト教史の中心的な研究・教育施設の一つとして、世界各国から多くの若い司祭・修道女・留学生を集め国際的な大学に成長している。キャンパスを訪れたならば、アジア・アフリカ出身の聖職者の数の多さに印象づけられることであろう。

ウルバニアーナ大学図書館の歴史は、1627年、

布教聖省に寄贈された書籍に端を発する。その後、貴重本や地図等がコレクションに加わり、蔵書が漸次拡大していく。1925年（聖年）、教皇ピウス11世により開催されたヴァティカン布教博覧会のために世界中から集められた3万冊に及ぶ書物——地理書、地誌、文典、辞典、民族誌、教理問答書など——も、一部を除き最終的に布教聖省の管轄下に引き取られた。翌1926年、教育・研究部門の移転に伴い図書館も分離を余儀なくされ、布教世省に残されることになった「宣教」にとりわけ関連の深い蔵書や資料を除いて、ウルバニアーナ大学が図書の多くを引き継ぎ、さらに蔵書を充実させて現在に至っている。

蔵書^{*1}は、キリスト教関係を中心に、インキュナブラ^{*2}212冊、16世紀のもの1100冊を含む計35万冊を数え、日本をはじめとする極東への布教に関連する書物などから成る「マレッラ枢機卿文庫」など、5種の特別コレクションも圧巻である。非西洋語で著された書物は計28000冊の多きを数え、言語の数は530種類、そのうち実に270種はアフリカの諸言語であるという。そのほか、アメリカ、オーストラリア、オセアニア、ニューギニアの現地語の文献も蔵している。アジアの言語に目を向ければ、中国語、日本語、朝鮮語、ベトナム語、ヒンディー語、ウルドゥー語、マレー語、ヘブライ語、アラビア語、アルメニア語など、これまた多岐にわたっている。

アジアに關係した資料が充実していることは、南インドを専門にする筆者にとって、なにより有り難いことである。たとえば、南インド・トラヴァンコールで西洋医療や近代教育を用いて積極的に伝導活動を展開したプロテスタント系のLMS(London Missionary Society)に關係する書簡のマイクロフィルムなども収蔵されており、ヴァティカンに居ながらにして、南

*1 ウルバニアーナ大学の蔵書の内訳に関する情報は、主としてロストコウスキ館長からの私信による。

*2 印刷術の揺籃期（15世紀後半ころ）に印刷された、扉のない初期刊行本。



ウルバニアーナ大学図書館書庫（左：ロストコウスキ館長、右：アレシアニ司書）

(courtesy: Grzegorz Galazka, *Anno Domini 2000: Pontificie Università e Atenei Romani, Città del Vaticano: Libreria Editrice Vaticana, 2000*, p. 46, with permission from P. Marek Rostkowski, OMI)

インドのキリスト教史や植民地期の研究を可能にしてくれるのである。

ウルバニアーナ大学図書館の蔵書数は、前述のとおり、現在のところ約35万冊であるが、年に4500冊ずつ着実に増加している。年間の利用者数は、小規模校でありながら、のべ24000人に昇る。1993年には、インデックス・カードが電子化され、コンピュータの端末から検索できるようになった。本図書館は、14の図書館から成るURBE(Unione Romana Biblioteche Ecclesiastiche、ローマ教会図書館連盟)の一員として、書誌的データおよび情報の共有と修士論文・博士論文の相互交換を行っている。現在、連盟に所属する図書館の間で、蔵書の管理のための共通ソフトウェアの開発が進められており、研究者への便宜を一層向上させ、研究の効率をより高めることが期待されている。

ウルバニアーナ大学図書館をめぐる最も新しい動きは、布教聖省の図書部門との再統合である。布教聖省がウルバニアーナ大学内に移転し、

1926年以前と同じく、敷地を共有するようになったのである。筆者が今年2月に大学を再訪したところ、ちょうどその数日前に、移転の完了を記念する式典を催したばかりのことであった。ウルバニアーナ大学も、大聖年を経て21世紀を迎える新しい段階に入っているといえよう。

ウルバニアーナ大学図書館を利用して

ここで、ウルバニアーナ大学の図書館を利用しての感想を綴って、本稿を閉じることにしたい。

この図書館の特徴は、第一にその自由な雰囲気にある。同じヴァティカン内でも、ヴァティカン図書館(ビブリオテーカ・ヴァティカーナ)のような一種敷居の高い「格式」とも無縁であり、布教聖省の書庫兼図書室のような極端に専門的で近寄りがたい雰囲気もなく^{*1}、またイエズス会の古文書館(アルキーブォ)や歴史研究所図書館のように立入りや開館時間の制約も少なく、きわめて開放的である。館員たちへの教育・訓練も行き届き、司書たちは所蔵されている図書に精通し、職務をよくわきまえている。筆者は、科学研究費補助金による南インド・キリスト教史の研究に関連して、毎日のようにイエズス会本部とウルバニアーナ大学図書館を梯子し通い詰めた時期があるが、いずれも国外からの来訪者に対しきわめて寛大かつ親切で、特に後者の場合、ベテランのアントニオ・アレシアニ司書をはじめ、職員一同、終始にこやかに応対し、何かにつけて厚意を示してくれた。この大学のもつインターナショナルな性格のゆえ、イタリアにあっては珍しく英語でも十分に意思疎通が可能であったのも、幸いであった。

館員の親身な対応も心に残る。盗難や蔵書の損傷などへの配慮もあるが、図書館員自らが、時に残業までして複写の労をとってくれ、翌日

*1 プロパガンダ・フィーデの資料には、古く且つ貴重な写本や手稿本も多く、館内閲覧が原則である。しかも筆写しか認められておらず、コピーや持ち出しが禁じられている。さらに、20世紀の特定の年代以降の所蔵資料については、閲覧すら許可されていない。カトリック教会の布教に関する最新の状況や詳細な情報に関しては、厳しいプロテクトがかかり、一定期間、外部者の目の届かないところに秘蔵されるのである。

には、ずっしりと重い資料のコピーを手にすることができた。外来の研究者が、複写の作業に煩わされることなく、存分に資料の検索・閲覧・読解に集中することができたのは、何よりの好運であった。

教皇のお膝元の大学であっても、あるいはむしろ、お膝元の大学であるが故に、「悩み」もまた存在する。現館長で、『ビブリオグラフィア・ミッショナリア』の新しい編集責任者でもあるロストコウスキ神父に伺ったところでは、ヴァティカンは、何かにつけ世間から裕福と見られがちで、図書館関連の資金援助を民間に仰いでも、なかなか取り合ってもらえないという。実のところ教皇庁が書籍の購入や図書館維持に回す予算は意外なほど少なく、館の管理・運営や蔵書の充実に頭を痛めているのが現状であるとのことであった。館長ご自身の案内で、地下幾層にもわたる書庫を詳しく視察することができたが、貴重書の所蔵状態にも改善の余地があったり、資金不足から未製本の書物が散見した

りなど、ご苦労されているありさまが察せられた。東洋語の資料、とりわけ日本語文献や中国語（漢語）文献についてのカタログ化やデータベースのシステム構築もはかりつつあるが、予算の制約に加え、電子化に伴う技術的な問題や、アジアの諸言語に精通した人材を調達する困難などがネックとなって、なかなか思うに任せない様子であった。

これらの困難が克服され、高度な専門性を維持しつつも、さらに一層開かれた図書館になることを切に期待したい。

(やました・ひろし)

Acknowledgements:

My sincere thanks are due to Prof. Cyril Veliath, SJ, P. Arthuro Martin, SJ, Fr. Takayuki Nakajima (Opus Dei), P. Willi Henkel, OMI, P. Marek Rostkowski, OMI, and Sig. Antonio Alesiani.

附属図書館利用者アンケート結果について

この利用者アンケートは、附属図書館（分館・図書室を含む）の業務及びサービスの改善・改革への取り組みを一層推進するため、附属図書館評価委員会が現状を分析・点検し自己評価する基礎資料とするため平成13年11月に実施しました。アンケート回答者として、学部学生、大学院生及び教官から2,000人を無作為に抽出して依頼したところ、580人から回答が寄せられました。

ここに、「東北大学附属図書館の現状と課題－自己点検報告書－（平成14年3月刊行）第2

部利用者アンケート集計結果」の抜粋を皆様への報告として掲載いたします。

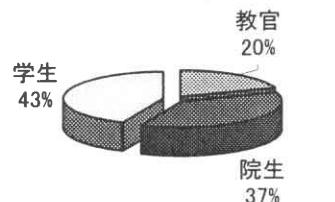
アンケートの結果には、謙虚に耳を傾けねばならない意見が多数寄せられており、また、従来からさまざまな形で指摘されてきた問題が今なお解決にいたっていないことを改めて明らかにするものもあります。附属図書館は、全学のご理解とご支援を得て、懸案事項の解決に努力したいと考えています。

最後に、このアンケートに回答・協力いただいた皆様に深く感謝いたします。

利用者アンケート集計結果（抜粋）

(1) 回答者身分

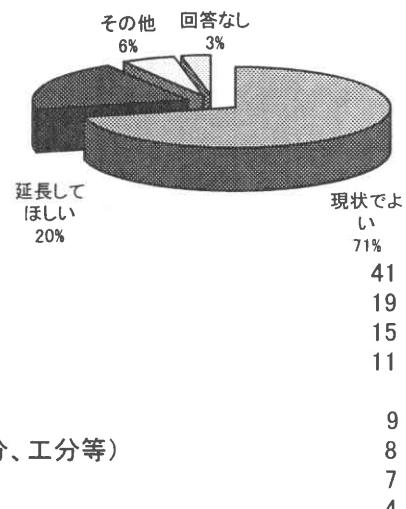
教官	院生	学生	合計
114	214	252	580



(2) あなたは、図書館(室)の開館時間・開館日についてどう思いますか。

(2-1) 開館時間

	計	教官	院生	学生
現状でよい	414	86	148	180
延長してほしい	116	18	50	48
その他	32	7	10	15
回答なし	18	3	6	9
計	580	114	214	252



延長してほしい(具体的に)

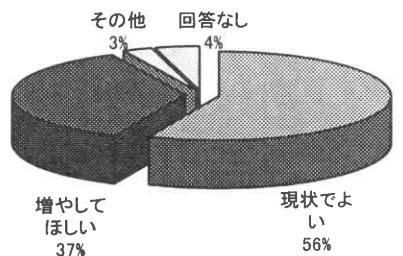
- ・22時まで(本館、北分、工分等)
- ・21時まで(北分、工分、農分)
- ・24時まで(本館、北分、工分等)
- ・23時まで(本館、工分、農分)

開館時間についてどう思いますか。

- ・朝8時から開館してほしい(本館、医分、北分)
- ・土曜日、休暇中も通常時と同様に開館してほしい(北分、工分等)
- ・2号館の開館時間の延長(本館)
- ・24時間開館してほしい(医分、北分)

(2-2) 開館日

	計	教官	院生	学生
現状でよい	328	80	125	123
増やしてほしい	212	23	76	113
その他	16	6	3	7
回答なし	24	5	10	9
計	580	114	214	252



増やしてほしい(具体的に)

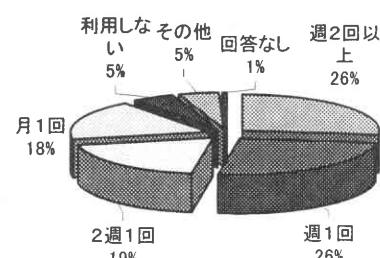
- ・日曜、祝日も開館して欲しい(本館、医分、工分等)
- ・土曜日(工分、北分、農分等)
- ・土、日、祝日も開館してほしい(北分、工分等)

開館日についてどう思いますか

- ・医療短期大学部の学生が土曜日も利用できるようにしてほしい(医分)
- ・土曜日も2号館を開館してほしい(本館)
- ・日曜日開館する代わりに、平日(月に何回か)を休館にする(本館)

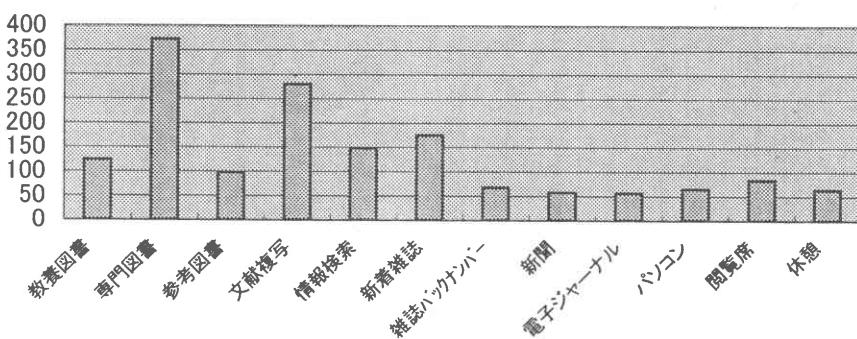
(3) あなたは、図書館をどの程度利用してますか。

	計	教官	院生	学生
週2回以上	157	13	53	91
週1回	148	28	69	51
2週1回	112	30	44	38
月1回	103	32	39	32
利用しない	30	4	4	22
その他	27	7	4	16
回答なし	3	0	1	2
計	580	114	214	252



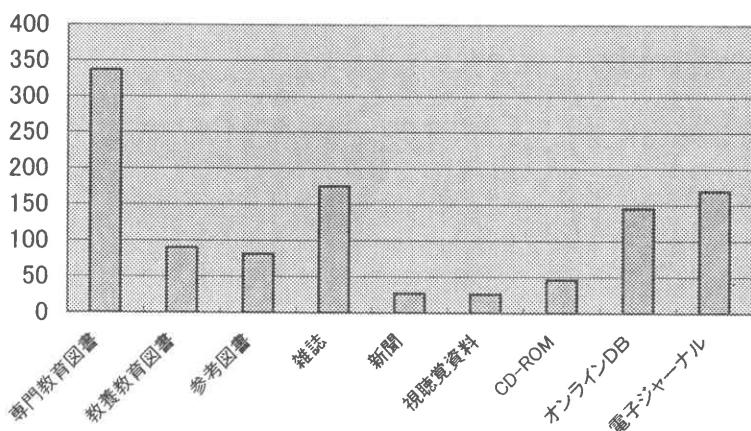
(4)あなたが図書館を利用する目的は何ですか(複数回答可)。

	計	%	教官	院生	学生
教養図書	124	8	86	32	6
専門図書	372	23	166	153	53
参考図書	98	6	57	33	8
文献複写	280	18	59	147	74
情報検索	148	9	32	71	45
新着雑誌	175	11	32	85	58
雑誌バックナンバー	68	4	39	26	3
新聞	58	4	7	35	16
電子ジャーナル	57	4	18	26	13
パソコン	65	4	64	1	
閲覧席	84	5	66	13	5
休憩	64	4	49	14	1
計	1,593	100	675	636	282



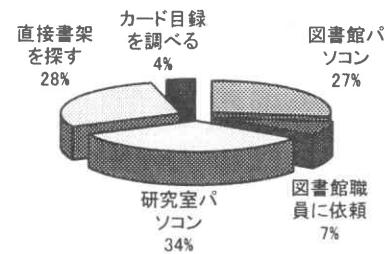
(5)あなたは、図書館のどの資料を充実させるべきだと思いますか(複数回答可)。

	計	%	教官	院生	学生
専門教育図書	337	31	160	127	50
教養教育図書	90	8	55	26	9
参考図書	81	7	45	24	12
雑誌	175	16	48	82	45
新聞	27	2	17	8	2
視聴覚資料	26	2	19	5	2
CD-ROM	46	4	18	17	11
オンラインDB	145	13	34	64	47
電子ジャーナル	169	15	21	91	57
計	1,096	100	417	444	235



(6)あなたは、利用したい資料をどのようにして検索しますか(複数回答)。

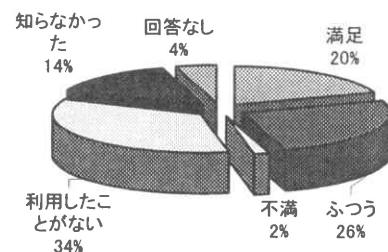
	計	教官	院生	学生
図書館パソコン	232	131	88	13
図書館職員に依頼	62	24	23	15
研究室パソコン	279	28	163	88
直接書架を探す	239	142	62	35
カード目録を調べる	34	18	10	6
計	846	343	346	157



(7)あなたは、次の図書館サービスを利用したことがありますか。

(7-1) レファレンスサービス

	計	教官	院生	学生
満足	114	25	57	32
ふつう	149	35	64	50
不満	10	1	6	3
利用したことがない	199	38	52	109
知らなかった	82	8	22	52
回答なし	26	7	13	6
計	580	114	214	252

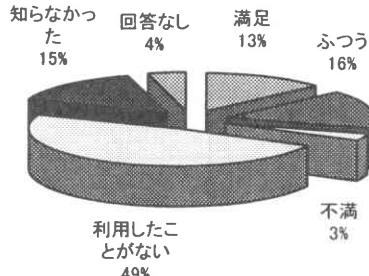


不満の主な理由

- ・検索結果ではあることになっていても実際に無いことが幾度かあった(北分等) 2
- ・利用時間が少ない。昼休み利用できない(本館) 1

(7-2) 他大学文献複写

	計	教官	院生	学生
満足	78	26	48	4
ふつう	92	37	40	15
不満	18	8	7	3
利用したことがない	281	36	94	151
知らなかった	87	1	15	71
回答なし	24	6	10	8
計	580	114	214	252

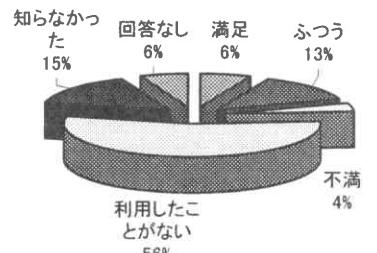


不満の主な理由

- ・申込みから時間がかかる(本館、医分等) 8
- ・費用が高い(本館等) 5
- ・手続きが煩雑(医分等) 3

(7-3) 学内文献複写

	計	教官	院生	学生
満足	37	21	13	3
ふつう	78	31	36	11
不満	24	7	16	1
利用したことがない	317	45	107	165
知らなかった	89	2	25	62
回答なし	35	8	17	10
計	580	114	214	252

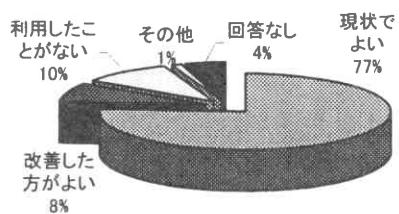


不満の主な理由

- ・私費での利用ができない(農分、医分等) 8
- ・手続きが面倒(工分、北分等) 6
- ・指導教官の名前でしか申し込みできない(本館等) 3

(8) あなたは、図書館の諸利用手続きについてどう思いますか。

	計	教官	院生	学生
現状でよい	443	82	169	192
改善した方がよい	47	15	21	11
利用したことがない	58	9	7	42
その他	6	1	2	3
回答なし	26	7	15	4
計	580	114	214	252

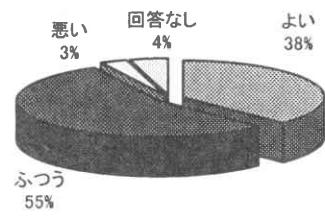


改善した方がよい(具体的に)

- ・複写申込手続きの簡略化(工分等)
 - ・手続きがなるべく簡単で速いものに(本館、医分)
 - ・研究室貸出の本の手続きの改善(本館)
 - ・手続きを行うことができる時間を延長してほしい(本館等)
- | | 10 |
|-----------------------------|----|
| 改善した方がよい | 6 |
| 手続きがなるべく簡単で速いものに(本館、医分) | 3 |
| 研究室貸出の本の手続きの改善(本館) | 3 |
| 手続きを行うことができる時間を延長してほしい(本館等) | 3 |

(9) あなたは、図書館職員の対応についてどう思いますか。

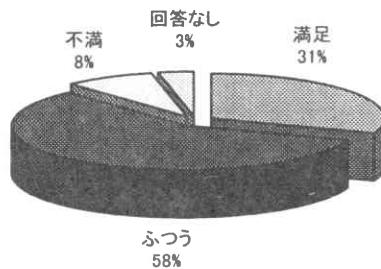
	計	教官	院生	学生
よい	218	57	80	81
ふつう	318	47	111	160
悪い	19	3	9	7
回答なし	25	7	14	4
計	580	114	214	252



(10) あなたは、図書館の環境についてどう思いますか。

(10-1) 建物

	計	教官	院生	学生
満足	178	35	59	84
ふつう	335	63	132	140
不満	47	12	12	23
回答なし	20	4	11	5
計	580	114	214	252

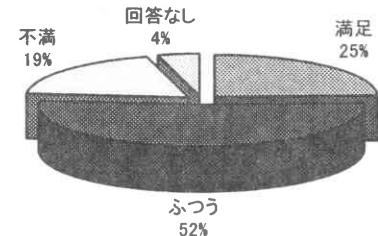


不満の主な理由

- ・狭い(本館、医分等)
 - ・学習スペース、トイレ等全体的に古くて汚い(本館、工分等)
 - ・落書き等が汚い(本館等)
- | | 10 |
|------------------------------|----|
| 狭い(本館、医分等) | 9 |
| 学習スペース、トイレ等全体的に古くて汚い(本館、工分等) | 6 |
| 落書き等が汚い(本館等) | 6 |

(10-2) 照明

	計	教官	院生	学生
満足	143	37	56	50
ふつう	302	66	109	127
不満	111	5	38	68
回答なし	24	6	11	7
計	580	114	214	252

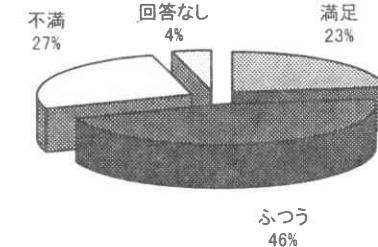


不満の主な理由

- ・全体的に暗い(本館、工分等)
 - ・机の蛍光灯がつかないことがある(本館、北分等)
 - ・灯りが切れている場所は直してほしい(医分)
- | | 68 |
|-------------------------|----|
| 全体的に暗い(本館、工分等) | 21 |
| 机の蛍光灯がつかないことがある(本館、北分等) | 7 |
| 灯りが切れている場所は直してほしい(医分) | 7 |

(10-3) 空調・冷暖房

	計	教官	院生	学生
満足	133	32	54	47
ふつう	269	65	99	105
不満	154	11	48	95
回答なし	24	6	13	5
計	580	114	214	252

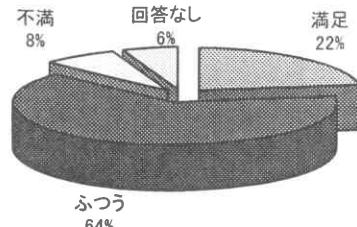


不満の主な理由

- ・夏は暑く、冬は寒い(本館、北分等) 68
- ・運用期間設定が硬直的過ぎる(本館等) 30
- ・空気が悪いと思うので循環するようにしてほしい(本館、北分) 12

(10-4) 話し声・雑音

	計	教官	院生	学生
満足	130	27	53	50
ふつう	374	73	131	170
不満	44	5	16	23
回答なし	32	9	14	9
計	580	114	214	252

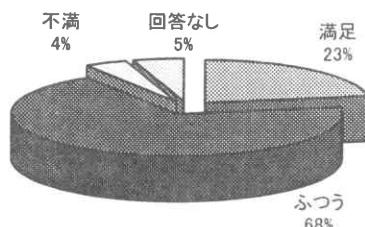


不満の主な理由

- ・話し声や、雑音が多い(医分、北分等) 11
- ・お喋りしている学生がいたら注意してほしい(工分、本館等) 6
- ・ラップトップコンピュータ、卓上計算機、また携帯電話のメール入力によるキー 5
- ・パンチの音が非常に気になる(本館)

(10-5) 図書の配置・配列

	計	教官	院生	学生
満足	131	24	56	51
ふつう	396	74	139	183
不満	24	8	8	8
回答なし	29	8	11	10
計	580	114	214	252

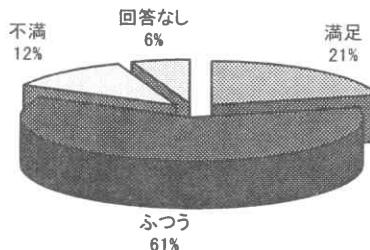


不満の主な理由

- ・もっと分かりやすく配置してほしい(本館、医分等) 8
- ・2階の雑誌が探しにくい。全体の配置図を出してほしい(医分) 2

(10-6) 閲覧席

	計	教官	院生	学生
満足	122	27	49	46
ふつう	356	71	130	155
不満	69	6	25	38
回答なし	33	10	10	13
計	580	114	214	252

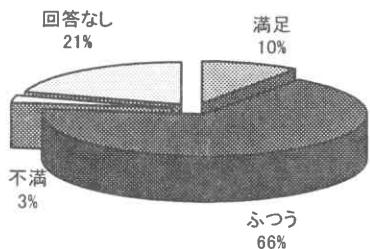


不満の主な理由

- ・閲覧席をふやしてほしい(本館、医分、工分等) 24
- ・椅子や机がぎしぎしする。また、椅子と机の高さがあってない(本館等) 19
- ・落書きをきれいにしてほしい(本館) 11

(10-7) 研究個室

	計	教官	院生	学生
満足	56	11	23	22
ふつう	388	64	147	177
不満	16	5	7	4
回答なし	120	34	37	49
計	580	114	214	252

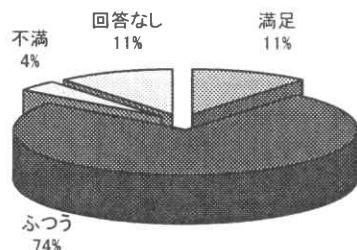


不満の主な理由

- ・利用の仕方がわからない(本館) 6
- ・無いので設置してほしい(農分) 2

(10-8)案内板等

	計	教官	院生	学生
満足	65	13	22	30
ふつう	429	76	166	187
不満	23	5	5	13
回答なし	63	20	21	22
計	580	114	214	252



不満の主な理由

- ・詳しく分かり易いものにしてほしい(本館、北分等)
- ・もっと見やすい位置に置いてほしい(本館)

14
7

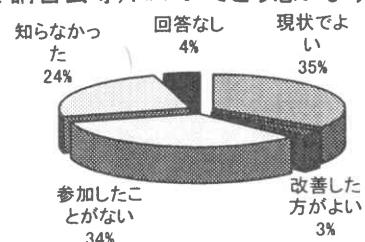
(10-9)施設・設備についてどのような希望、要望をお持ちですか。

- ・コピー機を増設してほしい(北分等)
- ・駐車場スペースをひろげてほしい(北分等)
- ・検索用の端末を増やして欲しい。2階(開架)、閉架、2号館など(本館)

5
4
3

(11)あなたは、図書館の利用ガイダンス(オリエンテーション、講習会等)についてどう思いますか。

	計	教官	院生	学生
現状でよい	201	27	70	104
改善した方がよい	16	2	6	8
参加したことがない	195	23	81	91
知らなかつた	142	51	45	46
回答なし	26	11	12	3
計	580	114	214	252



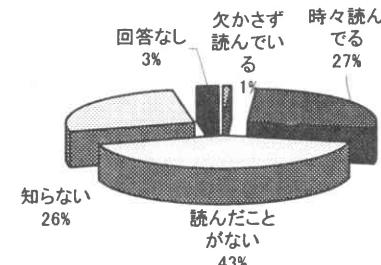
改善した方がよい(具体的に)

- ・そのような講習があることをもっと知らせてほしい(本館等)
- ・回数が少ないので参加しようと思ってもなかなか日程があわない(本館)
- ・雑誌や書籍の検索方法に無知な学生を減らしてほしい(本館等)

3
2
2

(12)あなたは、図書館の広報活動についてどう思いますか

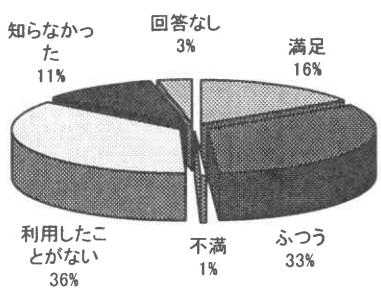
	計	教官	院生	学生
欠かさず読んでいる	7	7	0	0
時々読んでる	157	62	63	32
読んだことがない	247	31	93	123
知らない	153	11	47	95
回答なし	16	3	11	2
計	580	114	214	252



(13)あなたは、図書館ホームページで提供しているサービスを利用したことがありますか。

(13-1)利用案内

	計	教官	院生	学生
満足	94	22	51	21
ふつう	189	50	88	51
不満	4	0	2	2
利用したことがない	209	33	59	117
知らなかつた	65	3	6	56
回答なし	19	6	8	5
計	580	114	214	252



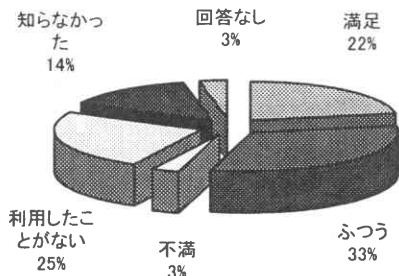
不満の理由

- ・分かりづらい
- ・分館以外の図書室の連絡先が不明確
- ・うまく機能しない

2
1
1

(13-2)OPAC(蔵書検索)

	計	教官	院生	学生
満足	130	26	75	29
ふつう	186	47	88	51
不満	18	3	10	5
利用したことがない	144	26	25	93
知らなかった	84	5	9	70
回答なし	18	7	7	4
計	580	114	214	252

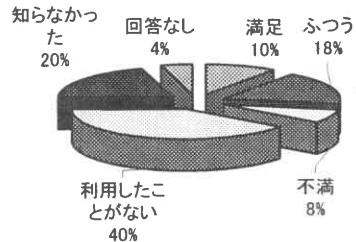


不満の主な理由

- ・使いにくい、分からない
- ・検索精度が低い
- ・貸出中の場合、いつまでかを表示してほしい
- ・古い資料がデータベース化されていない

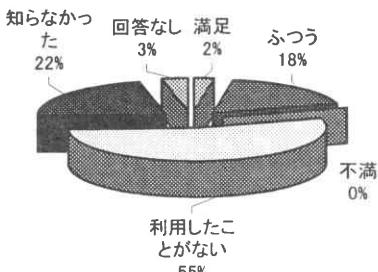
(13-3)電子ジャーナル

	計	教官	院生	学生
満足	58	17	34	7
ふつう	103	29	58	16
不満	44	18	23	3
利用したことがない	232	37	62	133
知らなかった	118	10	23	85
回答なし	25	3	14	8
計	580	114	214	252



(13-4)広報・刊行物

	計	教官	院生	学生
満足	14	7	5	2
ふつう	105	34	51	20
不満	1	0	1	0
利用したことがない	311	61	110	140
知らなかった	130	9	35	86
回答なし	19	3	12	4
計	580	114	214	252



不満の理由

- ・誰を対象にしているのか不明

1

(13-5)あなたは、図書館(室)のホームページについてどのような希望、要望をお持ちですか。

- ・図書館のホームページは見やすく、簡易でよくできている
- ・ホームページがあることもしらなかつたのでもっと宣伝して欲しい
- ・ホームページから貸出予約や新刊購入希望・問合せなどが一括してできると便利だと思う
- ・どこに何があるのかわかりづらいです

9

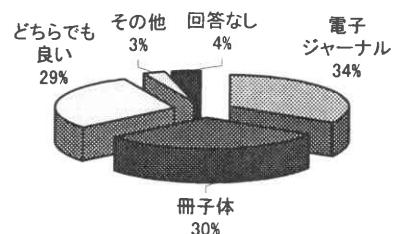
5

4

4

(14)あなたは、雑誌が電子ジャーナルと冊子体で提供されている場合、どちらを利用しますか。

	計	教官	院生	学生
電子ジャーナル	195	60	100	35
冊子体	176	28	41	107
どちらでも良い	168	19	53	96
その他	18	5	11	2
回答なし	23	2	9	12
計	580	114	214	252



その他の内容

- ・両方 9
- ・用途による(興味のある論文を探すようなときには冊子体、ほしい論文が決まっているときには電子ジャーナル) 3

(15)あなたは、図書館が提供しているデータベースサービスに対してどのような希望、要望をお持ちですか。

- ・よく分かっていなかった。今度、有効に活用したいと思う 22
- ・データベースサービスの内容、使い方を、もっと分かり易く紹介してほしい 18
- ・もっとデータベース・サービスを充実させてほしい 9
- ・図書館からだけでなく、学内からも無料で利用可能にしてほしい 7

(16)あなたは、図書館(室)に対してどのような希望、要望をお持ちですか。

- ・もっと開館時間を増やして欲しい。土・日・祝日も開館して欲しい(本館、北分等) 22
- ・現状で満足である(工分、本館等) 18
- ・新刊書を充実してほしい(本館、工分、農分等) 14
- ・図書館のサービスについてもっと詳しく教えてほしい(本館等) 11
- ・空調・冷暖房の設備の改善を望む(本館等) 9
- ・検索用パソコンを開架や書庫のあちこちに分散しておいてほしい(本館) 4
- ・本の貸借や私費での文献複写を、所蔵館へ出向かなくとも、最寄りの図書館から申し込めるようにしてほしい(工分等) 4

平成13年度参考図書購入報告

参考図書費（文部科学省参考図書費、本学共通経費、川内地区部間共通費等）により平成13年度に購入し、本館レファレンス・コーナーに配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。

（情報管理課）

◆ 主な継続受入資料 ◆

CD-HIASK：朝日新聞記事データベース 2000
NDL CD-ROM Line 雑誌記事索引 2001
官報総索引 2000
現行法令 CD-ROM 2001
国語年鑑 2001
ブックページ=本の年鑑 2001
Biological Abstracts. 2001
Commonwealth universities yearbook. 2001
Contemporary authors. 2001
Deutsche Nationalbibliographie. Reihe E, Monographien und Periodika. 1996-2000 全40巻
Encyclopaedia Indica : India, Pakistan, Bangladesh. 71-90 全20巻
The Europa world yearbook. 2000-2001
IBN. Pars C, Corpus alphabeticum. 1, Sectio generalis. 2001
International handbook of universities. 16th (2001)
The International who's who. 65 (2002)
Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur aus Allen Gebieten des Wissens. (IBZ)
34-35 (1998-1999)
Mcgraw-Hill yearbook of science and technology. 2001
The National faculty directory. 2001-2002
Verzeichnis lieferbarer Bucher. Ergänzungsband = German books in print. 2001-2002
Verzeichnis lieferbarer Bucher. ISBN-Register = German Books in print ISBN-register.
2000-2001, 2001-2002
Whitaker's books in print. 2001
Who's who in France. 33 (2001-2002)
The World of learning. 52 (2002)

◆ その他の主な受入資料 ◆

英米文学研究文献要覧 1995-1999
ケセン語大辞典
世界児童・青少年文学情報大事典
世界地理大百科事典
続人物研究・伝記評伝図書目録
夏目漱石事典
日本国語大辞典 第2版 全13巻
International encyclopedia of the social & behavioral sciences. 全25巻

平成13年度特別図書購入報告

特別図書購入費（文部科学省配分）によって下記資料を購入し、本館に備え付けましたのでご利用ください。

(情報管理課)

番号	資料名	内容	出版形態
1	Paul Valery Cahiers (ポール・ヴァレリー「カイエ」)	ポール・ヴァレリーの手稿写真版。	図書
2	ビデオシリーズ「日本語授業の実際」 1-5シリーズ 外国語体験授業	国際交流基金の助成、(社)日本語教育学会の監修のもとに関係教育機関の協力を得て教室で行われている実際の日本語授業を数年にわたって収録し編集したもの。	ビデオテープ
3	近代女性作家精選集 1-24巻	明治から昭和初期に刊行された女性作家の単行本の中から全集、作品集に未登録であり、かつ文学的価値の高いものを精選し、復刻したもの。	図書
4	教育年鑑（第3期 戦後版） 昭和23年-昭和32年	敗戦直後の昭和23年から昭和31年以前に4種の団体・個人が編纂刊行した教育年鑑類をまとめたもの。学生が教育の実態を歴史的に理解する上で有用な資料集。	図書
5	Education and Psychology. (教育と心理学) 10 Vols.	アメリカにおける教育と心理学分野における研究と実践の現状と具体的な試案が最新の研究や論評としてまとめられており、さまざまな教育問題をかかえる世界各国の教育事情について考察する際に有益な資料。特に学生には貴重な資料。	図書
6	Crime and Delinquency (犯罪と非行) Vol. 32-46	刑事政策関係の最も基本的な雑誌の一つ。	図書
7	ボワソナード民法典資料集成 第2期 第一回配本：民法理由書	ボワソナードによる旧民法典関係資料を復刻した資料集。現行民法典前三編はこのボワソナード民法典の「修正」として出来上がった経緯があり、この資料集は民法典成立過程史の研究や日本民法の性質を明らかにするための根本資料。	図書
8	「資本論」第2部 第1草稿ほか「マルクス・エンゲルス全集（MEGA）第II部第4巻第1分冊所収マルクス経済学緒草稿」	「資本論」第2部第1草稿（1864-65）第6章「直接的生産過程の緒結果」、「価値、価格および利潤」など草稿オリジナル所収（特注品）。	マイクロフィルム
9	North China Herald.(Shanghai) (ノース・チャイナ・ヘラルド) 1850-1873	19世紀半ばから20世紀半ばにかけて上海で発行された英字新聞で、欧米諸国の対東アジアの政治・経済の動向を知るための貴重な基礎資料。	マイクロフィルム
10	The Works of Thomas de Quincey. (トマス・ド・キンシー著作集) 7 Vols.	英国ロマン派の隨筆家・批評家、ド・キンシーの初めての網羅的全集	図書
11	Bibliographia Missionaria (キリスト教布教研究ビブリオグラフィー) Anno 1-64	キリスト教に関する研究（宗教史的、キリスト教学的、人類学的、社会学的、地域研究的）について書誌学的に整理し、提示したもの。（世界各国の最新の研究成果がわかる。）	図書
12	St. James Encyclopedia of Popular Culture. (アメリカ大衆文化百科事典) 5 Vols.	アメリカ合衆国の大衆文化に関する網羅的事典。	図書

番号	資料名	内容	出版形態
13	Early English Books. STC2. (近世初期英語印刷文献集成) Unit 112-114	清教徒革命から王政復古に至る期間の英国初期刊本を集成したもの。	マイクロフィルム
14	Parliamentary Debates(Hansard). House of Commons 6th ser., Vols. 325-345	英国議会下院における会期ごとの議員の発言・討論を逐語的に収録したもの。	図書

第33回国立大学図書館東北地区協議会総会

標記会議が、4月11日（木）・12日（金）秋田大学を会場として東北地区7大学から27名参加して開催され、次ぎの協議題について討議が行われた。

- 1) 第49回国立大学図書館協議会総会に向けての準備事項について
- 2) 法人化に向けての附属図書館の対応について
- 3) 単位互換に関わる他大学学生の図書館利用について
- 4) 法人化後の国立大学図書館協議会のあり方について
- 5) 次期当番館について
- 6) その他

その結果、次ぎのとおり決定した。

1. 文部科学大臣に対して特に要望すべき事項
 - (1) 平成14年度から電子ジャーナル（ライ

フサイエンス関係）に関する予算措置がなされたが、次年度以降も拡大して予算措置がなされるよう要望する。

- (2) 学生用図書購入費の増額の要望
2. 総会の分科会で検討するための協議題
 - 第1分科会「法人化後の国立大学図書館協議会のあり方について」
 - 第2分科会「法人化に向けての附属図書館の対応について」
3. その他
 - 理事候補館
 - 岩手大学附属図書館（第1部会）
 - 東北大学附属図書館（第2部会）
 - 地区連絡館
 - 東北大学附属図書館

（総務課）

会議

◎学内

14. 5.10 法人化事務検討委員会・図書部会
(第1回)
- 5.14 平成14年度第1回拡大分館長会議
- 5.30 法人化事務検討委員会・図書部会
(第2回)
6. 6 平成14年度第2回拡大分館長会議
- 6.13 法人化事務検討委員会・図書部会
(第3回)

◎学外

14. 4.11～12 第33回国立大学図書館東北地区協議会総会 (於：秋田大)

- 5.21 国立大学図書館事務部課長会議
(於：学術総合センター)
- 5.22 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会 (於：東大)
- 5.22 国立大学図書館協議会著作権特別委員会 (於：東大)
- 5.22 国立大学図書館協議会常務理事会 (於：東大)
- 5.23 国立大学図書館協議会理事会 (於：東大)
- 6.26～27 第49回国立大学図書館協議会総会 (於：鳥取大)

附属図書館商議会商議員名簿

平成14年4月1日現在

所 属	氏 名	任 期
図 書 館 長	小 田 忠 雄	官 職 指 定 (9.12. 1~14.11. 5)
図 書 館 副 館 長	布 田 勉	官 職 指 定 (12.12. 1~14.11. 30)
医 学 分 館 長	飯 沼 一 宇	官 職 指 定 (11.12. 1~14.11. 30)
北 青 葉 山 分 館 長	吉 藤 正 明	官 職 指 定 (11. 4. 1~15. 3. 31)
工 学 分 館 長	奥 脇 昭 嗣	官 職 指 定 (14. 4. 1~16. 3. 31)
農 学 分 館 長	大 森 迪 夫	官 職 指 定 (13. 4. 1~15. 3. 31)
情報シナジーセンター長	根 元 義 章	官 職 指 定 (13. 4. 1~15. 3. 31)
事 務 局 長	北 村 幸 久	官 職 指 定 (12. 7. 1~)
文学研究科教授	吉 原 直 樹	13.10. 1~15. 3. 31
教育学研究科教授	宇 野 忍	14. 4. 1~15. 3. 31
法学研究科教授	関 俊 彦	14. 4. 1~16. 3. 31
経済学研究科教授	柴 田 信 也	14. 4. 1~15. 3. 31
理学研究科教授	倉 本 義 夫	11. 4. 1~16. 3. 31
医学系研究科教授	里 見 進	11. 4. 1~16. 3. 31
歯学研究科教授	奥 野 攻	13. 4. 1~15. 3. 31
薬学研究科教授	根 東 義 則	14. 4. 1~16. 3. 31
工学研究科教授	日 野 光 児	13. 4. 1~15. 3. 31
農学研究科教授	谷 口 旭	13. 4. 1~15. 3. 31
国際文化研究科教授	井 川 真 砂	14. 4. 1~15. 3. 31
情報科学研究科教授	日 合 文 雄	13. 4. 1~15. 3. 31
生命科学研究科教授	前 田 靖 男	13. 4. 1~15. 3. 31
教育情報学研究部教授	村 木 英 治	14. 4. 1~16. 3. 31
金属材料研究所教授	平 賀 賢 二	12. 7. 1~15. 3. 31
加齢医学研究所教授	佐 竹 正 延	14. 4. 1~15. 3. 31
流体科学研究所教授	徳 山 道 夫	14. 4. 1~16. 3. 31
電気通信研究所教授	矢 野 雅 文	10. 4. 1~16. 3. 31
多元物質科学研究所教授	宮 下 徳 治	13. 4. 1~15. 3. 31
東北アジア研究センター教授	瀬 川 昌 久	14. 4. 1~16. 3. 31
大学教育研究センター教授	閔 内 隆	8. 4. 1~15. 3. 31

人 事 異 動

平成14年6月30日現在

発令年月日	新 官 職	氏 名	旧 官 職	備 考
14. 3.31		宮 崎 照 宣	工学分館長	任期満了
"		佐 藤 青 史	医学分館総務掛長	定年退職
"		藤 汐 和 子	文部科学事務官(北青葉山分館管理掛)	"
"		鹿 島 正 子	文部科学事務官(工学分館管理掛)	"
"		岩 崎 道 子	文部科学事務官(工学分館整理・運用掛)	"
14. 4. 1	北青葉山分館長	吉 藤 正 明		併任(再任)
"	工学分館長	奥 脇 昭 嗣		併 任
"	事務部長	坂 上 光 明	北海道大学附属図書館事務部長	配 置 換
"	宮城教育大学附属図書館事務部長	柄 原 孝 夫	医学分館事務長	転 出
"	医学分館事務長	高 橋 豊 志	総務部総務課専門員	昇 任
"	金属材料研究所経理課経理掛長	武 田 浩	総務課会計掛長	配 置 換
"	総務課会計掛長	佐 藤 芳 宏	医学部附属病院医事課専門職員	"
"	総務課情報企画掛長	米 澤 誠	国立情報学研究所開発・事業部コンテツ課コンテツ形成管理係長	転 入
"	金属材料研究所総務課図書掛長	及 川 恵美子	情報管理課図書情報掛長	配 置 換
"	情報管理課図書情報掛長	松 元 義 正	北青葉山分館管理掛長	"
"	情報シナジーセンター学術情報支援掛長	日 出 弘	情報管理課電子情報掛長	"
"	電気通信研究所総務課図書掛長	湯 本 智 子	情報管理課雑誌情報掛長	"
"	情報管理課雑誌情報掛長	南 館 義 孝	電気通信研究所総務課図書掛長	"
"	北青葉山分館管理掛長	嶺 岸 文 男	情報サービス課閲覧第一掛長	"
"	情報サービス課閲覧第一掛長	星 政 則	情報シナジーセンター学術情報支援掛長	"
"	医学分館総務掛長	佐 藤 武 彦	医学部附属病院医事課専門職員	"
"	総務課庶務掛主任	伊 藤 亜紀子	文部科学事務官(総務課庶務掛)	昇 任
"	文部科学事務官(総務課情報企画掛)	照 内 弘 通	文部科学事務官(情報管理課電子情報掛)	配 置 換
"	文部科学事務官(宮城教育大学附属図書館運用掛)	三 浦 純 子	文部科学事務官(医学分館整理掛)	転 出
"	文部科学事務官(医学分館整理掛)	村 上 康 子	文部科学事務官(宮城工業高等専門学校庶務課図書係)	転 入
"	文部科学事務官(医療技術短期大学部図書室)	福 井 ひとみ	文部科学技官(工学分館管理掛)	"
"	文部科学事務官(工学分館管理掛)	宗 川 かほり	文部科学事務官(医学部附属病院医事課)	配 置 換
"	文部科学事務官(工学分館管理掛)	佐 藤 優美子	文部科学事務官(農学分館図書掛)	"
"	文部科学事務官(農学分館図書掛)	近 藤 真澄美	文部科学事務官(工学分館整理・運用掛)	"
"	文部科学事務官(工学分館整理・運用掛)	吉 川 文 子	文部科学事務官(多元物質科学研究所総務課研究協力掛図書室)	"
"	文部科学事務官(多元物質科学研究所総務課研究協力掛図書室)	佐 藤 初 美	文部科学事務官(北青葉山分館整理・運用掛)	"

発令年月日	新官職	氏名	旧官職	備考
14. 4. 1	文部科学事務官（宮城工業高等専門学校庶務課図書係）	小幡明子	文部科学事務官（医療技術短期大学部図書室）	転出
〃	文部科学事務官（北青葉山分館整理・運用掛）	菊地良直		採用
〃	文部科学事務官（工学分館整理・運用掛）	落合浩平		〃
〃	事務補佐員（情報サービス課相互利用掛）	沼田正子	事務補佐員（情報管理課受入掛）	配置換
〃	事務補佐員（情報管理課受入掛）	志田千恵子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	〃
〃	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	伊藤艶子	事務補佐員（情報サービス課相互利用掛）	〃
〃	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	渡部信子	事務補佐員（総務課庶務掛）	〃
〃	事務補佐員（総務課庶務掛）	岩井美紀子	事務補佐員（情報管理課図書情報掛）	〃
〃	事務補佐員（医学分館総務掛）	若生ゆかり	事務補佐員（総務課会計掛）	〃
〃	事務補佐員（総務課会計掛）	矢内礼	事務補佐員（医学分館総務掛）	〃
〃	事務補佐員（情報管理課図書情報掛）	渡辺順子	事務補佐員（情報管理課雑誌情報掛）	〃
〃	事務補佐員（情報管理課雑誌情報掛）	中鉢たか子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	〃
〃	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	斎藤房江	事務補佐員（情報管理課雑誌情報掛）	〃
〃	事務補佐員（情報管理課雑誌情報掛）	高野博子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	〃
〃	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	村上園子		採用

お知らせ

常設展の展示内容を入替えました

○東北大学附属図書館所蔵特殊文庫の紹介

新たに以下の2つの文庫を紹介しています。

- ・中村文庫（本学経済学部長、附属図書館長をつとめた中村吉治の旧蔵書）
- ・晩翠文庫（「荒城の月」の作詞で有名な土井晩翠の旧蔵書）

○書物の装丁

- ・一部内容を変更しました。

○東北大学附属図書館発行出版物紹介

- ・今回は図書館報等、逐次刊行物を展示しました。

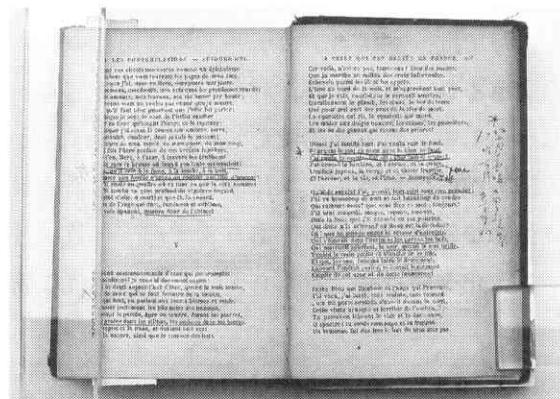
○東北大学出版会刊行物

- ・新刊を加えました。

○東北大学附属図書館（分館を含む）紹介

- ・2002年版の利用案内等を展示しました。

※次回の展示入替えは、明年1月の予定です。



晩翠の書き込みのある本

蔵書目録検索（Online Catalog）に学外検索機能を追加しました。

これまで Online Catalog では、東北大附属図書館等の資料しか検索できず、他の大学図書館等の資料を調べるには、別の検索サイトを利用しなければなりませんでした。これを改善するために、Online Catalog 詳細検索画面で他の大学図書館等も検索できる機能を追加し、平成14年6月3日（月）から提供開始しました。

この機能で検索できるのは、大学共同利用機関の国立情報学研究所が提供している「総合目録データベース（Webcat）」です。総合目録データベースでは、国内の大学図書館等1,600以上

の機関が所蔵する図書・雑誌を検索することができます。また、検索結果画面からオンラインで、学外資料の文献複写申込・現物借用申込を行うことが可能となりました。



Online Catalog 詳細検索画面

編 集 後 記

今、巷ではワールドカップ・サッカーの話題が盛んである。世界の一流と言われる選手達のプレーもさることながら、各国の国民性を反映した戦い方も興味深いものがある。

予想外？に日本が活躍したのもその一因であるが、Jリーグという新しいシステムの導入と選手の海外派遣などの長期的な展望に立った戦略の結果でもある。

今号では、利用者アンケートの結果についての記事を載せましたが、利用し易く役に立ち、誰からも愛される図書館にしたいものです。

図書館には、サービス体制の強化や学術情報資源の整備等課題も多くありますが一年数ヶ月で法人化という今、最も必要なものは明確な価

値観と将来像、組織としてのまとまり、優秀な経営者、そして何よりも強力なサポーターの存在ではないでしょうか。

(ミナミ)

広報委員

清水 二郎 菅原 邦男 高橋 正平
南館 義孝 阪脇 孝子 真籠 元子
菅原 淑子 五十嵐幸子 藤澤こづ江
矢野 誠

編集委員

菅原 邦男 南館 義孝 菅原 淑子
阪脇 孝子 真籠 元子

東北大附属図書館報「木這子」 第27巻第1号（通巻98号）発行日 平成14年6月30日

発 行 人 坂上 光明 広報委員長 清水 二郎

発 行 所 東北大附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5911, FAX 022-217-5909

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>